

#### 4-1-9-4 疼痛管理科

近藤 陽一

##### 疼痛管理科の歩み

疼痛管理科は手術集中治療部の一部として、手術室業務の一環として周術期の疼痛管理を行っている。業務内容を大きく分けると、

1. 出産に伴う母体の疼痛管理
2. 小児の術後疼痛管理
3. 小児がんの慢性疼痛管理

である。

##### 1. 出産に伴う母体の疼痛管理

帝王切開患者と経膈分娩での硬膜外鎮痛を希望する患者（無痛分娩希望者）は年々増加の一途をたどっていて、昨年度は全分娩数の半数を突破した。特に無痛分娩希望者の増加がめだつ。麻酔科外来の一環として、硬膜外無痛分娩の説明を行う専門外来を今年度から開設したが、週 10 名の予約枠がほぼ満ちる状況から、今年度は無痛分娩数のさらなる増加が予想されている。注目すべきは、無痛分娩希望者の大多数は、医療関係者からの勧めではなく、妊婦みずからの意志で「24 時間無痛分娩をしてくれる病院」という理由で、当院での出産を選択していることである。麻酔科医師の欠乏を反映して日本では無痛分娩が可能な施設は欧米に比べて極端に少なく、当院でも手術室業務の拡大に伴い、無痛分娩続行が危ぶまれる状況であるが、欧米では妊婦が当然受ける権利のある無痛分娩を我々の施設で中止することは社会的に許されないのではないだろうか。

	帝王切開	無痛分娩	全経膈分娩	分娩総数
2005 年 1 月	34	44	121	155
2 月	39	17	78	117
3 月	34	32	80	114
4 月	50	26	101	151
5 月	33	19	70	103
6 月	36	18	93	129
7 月	44	23	81	125
8 月	30	23	78	108
9 月	43	18	89	132
10 月	41	26	85	126
11 月	41	31	98	139
12 月	43	21	88	131
合計	468	298	1062	1530

##### 2. 小児の術後疼痛管理

国立小児病院時代から、我々は国内ではいち早く小児の術後疼痛管理に IV-PCA を導入し、子供が手術後に痛みを感じたときには、自分で自分に麻薬（モルヒネ）を注射するという鎮痛法を定着させた。PCA を行う適応は大きな侵襲をうける手術、つまり開胸、開腹、四肢、脊柱の骨切りなどで、対象は全科にわたっている。手術件数にしめる PCA の割合は 15%前後で、毎年ほぼ一定であるが、手術件数増加を反映して、昨年度は IV-PCA 症例が年間 700 例に達した。

### 3. 小児の癌性疼痛管理

小児悪性腫瘍患者の疼痛管理では、終末期の緩和ケアも重要であるが、骨髄移植前後の大量化学療法に伴う口腔消化管の粘膜障害の痛みが頻度として最も多い。我々は以前から血液腫瘍科からの依頼で、口腔消化管の粘膜障害の痛みに対して IV-PCA モルヒネを行っている。数日で痛みが消失する術後と異なり、数週間モルヒネを継続することになるが、これまでモルヒネ依存症を合併したことはない。昨年度の患者数は、大量化学療法骨髄移植数の増加を反映して 20 名に達した。

#### 終わりに

疼痛管理科の使用する薬は、最も強力な鎮痛薬である麻薬（フェンタニルとモルヒネ）が主体である。残念ながら、国内では麻薬取締法のため、麻薬の使用には、非常に煩雑な手順が必要になり、手術集中治療部の医師は麻薬伝票や空アンプル処理などの事務処理に追われており、本来医師の行うべき鎮痛評価（客観的疼痛スケール評価）まで手がまわっていないのが実情である。麻薬希釈液の薬剤部混合や麻薬伝票の電子化（はんこの廃止）など、手術集中治療部の医師の業務を軽減する方策を取ってほしい。

#### 麻酔件数

手術統計 2005 年度

手術数 4436

外来ではない手術数	4238
外来手術数	198

患者数 4243

外来ではない患者数	4045
外来患者数	198

#### 麻酔法別統計

全身麻酔（吸入）	650
全身麻酔（TIVA）	2694
全身麻酔（吸入）+硬・脊・伝麻	162
全身麻酔（TIVA）+硬・脊・伝麻	329
脊椎くも膜下硬膜外併用麻酔（CSEA）	319
硬膜外麻酔	31
脊椎くも膜下麻酔	49
伝達麻酔	14
その他	182
空欄、上記以外	6
合計	4436